

藻類養殖情報（令和4年2月号）

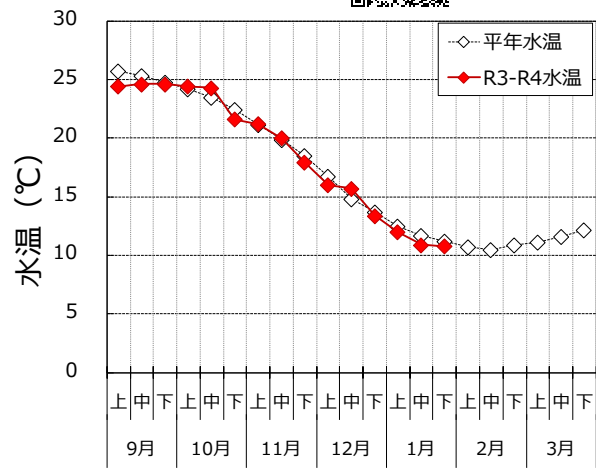
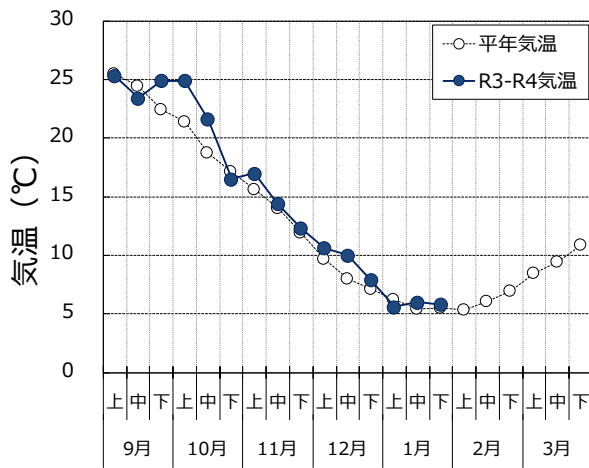
令和4年2月10日発行
 大阪府立環境農林水産総合研究所
 水産技術センター

○漁場環境

- ・気温（谷川）：1月は月を通しておおむね平年並みに推移しました。
- ・水温（谷川）：1月は風が強く吹く日が多く、急な降温と昇温を繰り返しながらも平年よりも0.4～0.8℃程度低めに推移しました。

下記の水産技術センターホームページでも水温情報を毎日更新しておりますのでご利用下さい。
 携帯電話でご利用の方は右のQRコードを読み取ってください。

URL：<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/suion/index.html>



旬別気温・水温の推移（谷川地先9時）（平年値はH23～R2年度の平均）

- ・降水量（谷川）：1月の降水量は23.0mmとなり、平年の半分以下となりました。特にまとまった降水があった日が2日間だけと少なく、特に1月上旬には全く降水がありませんでした。

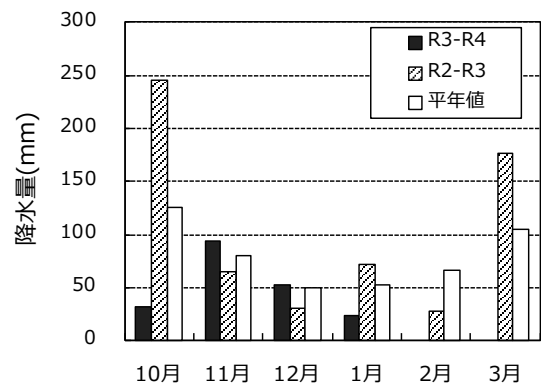
・今後の気温降水量予測（気象庁季節予報）

2月5日～3月4日の期間中には、寒気の影響を受けやすく平均気温は平年並みから低く、降水量はほぼ平年並みと予報されています。

季節予報の詳細につきましては右のQRコードもしくは下記のURLから気象庁ホームページをご確認ください。



URL：https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=270000&term=1month



降水量（谷川地先）
 （平年値はS47～H27年度の平均）

○漁場水質調査結果（1月31日採水）

- **塩分**：塩分は31.39～32.64でした。
- **リン**：濃度は0.16～0.35 $\mu\text{mol/l}$ で、全体的に低い状況でした。
ワカメ養殖：いずれの地区もかろうじてワカメの色落ち警戒濃度は上回っていますが、全体的に低い状況にあります。
ノリ養殖：尾崎では0.24 $\mu\text{mol/l}$ 、西鳥取では0.19 $\mu\text{mol/l}$ と両地区ともにノリの色落ち警戒濃度を大きく下回っています。
- **窒素**：濃度は0.63～5.05 $\mu\text{mol/l}$ で、全体的に低い状況でした。
ワカメ養殖：岡田浦では1.08 $\mu\text{mol/l}$ 、西鳥取では0.63 $\mu\text{mol/l}$ とワカメの色落ち警戒濃度を下回る非常に低い状況にあります。また、田尻・尾崎・下荘・谷川地区ではワカメの色落ち警戒濃度は上回っていますが、低い状況です。
ノリ養殖：尾崎では5.05 $\mu\text{mol/l}$ 、西鳥取では0.63 $\mu\text{mol/l}$ と両地区ともにノリの色落ち警戒濃度を大きく下回っています。

	ワカメ	ノリ
リン ($\mu\text{mol/l}$)	0.1	0.5
窒素 ($\mu\text{mol/l}$)	2	10

藻類色落ち警戒栄養塩濃度
 （この数値を下回ると色落ちの可能性あり）

※青字はノリの色落ち警戒濃度以下、赤字はワカメの色落ち警戒濃度以下

漁場	田尻	岡田浦	尾崎*	西鳥取*	下荘	谷川 (地先)	谷川 (豊国崎)
塩分 (psu)	31.53	31.55	31.39	31.75	31.65	32.64	32.49
リン ($\mu\text{mol/l}$)	0.28	0.16	0.24	0.19	0.35	0.34	0.34
窒素 ($\mu\text{mol/l}$)	2.52	1.08	5.05	0.63	2.64	2.34	2.44

*尾崎・西鳥取地区にはノリ漁場があります。

○赤潮発生状況

1月31日・2月2日の海洋観測では大阪湾内に赤潮の発生は確認されませんでした。一方、田尻から西鳥取にかけての地区では小型の植物プランクトンのうちスケルトネマを主体とする小型珪藻がやや多く発生しており、栄養塩の低下を引き起こしていると考えられます。最近の大阪湾内の赤潮発生状況については下記の水産技術センターホームページに掲載しておりますのでご参照下さい。

URL：<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/akashio/sokuho.html>



○養殖状況（1月31日）

ノリ：1月中旬以降に強度の色落ちが生じ、1月下旬には板海苔の生産が中断されています。

ワカメ：各地区で50cm～1m程度まで生長し、生わかめでの出荷が行われています。しかしながら、栄養塩の低下に伴い、強度の色落ちが生じています。

○病害異常

海域全体で栄養塩の低い状況が確認され、ノリ、ワカメ共に強度の色落ちが生じています。1月中の降雨量が少なく、河川からの栄養が漁場に供給されにくい状況にあったことが主要因と思われます。

※ノリ・ワカメの異常が疑われる際には、水産技術センターへ葉体を持参して頂ければ、随時検査します。